

1 自己評価及び外部評価結果 (外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人敬英会		
事業所名	グループホーム幸楽の里 【ユニット名:白樺】		
所在地	和歌県橋本市隅田町山内		
自己評価作成日	平成22年04月06日	評価結果市町村受理日	平成22年 6月 7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071000453&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成22年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ゆったりとした中にも季節の行事や、地域の風習などを取り入れめりりをつけ、楽しいこと、うれしいことをできるだけ多く生活の中で感じてもらい、良かったと思っていたきたいとおもいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>山間の自然に囲まれ、法人の老人保健施設と同じ敷地内にグループホームの木造の建物がある。格子戸の玄関は温かみを感じられ、リビングを囲むように配置された居室は生活感のある住居らしい雰囲気になっている。各居室内には入居者の私物が持ちこまれ個性が活かされている。位置的に地域住民と触れ合う機会はありませんが、1日に1回は外出できるような意欲のある取り組みで入居者の暮らしをサポートしている。日頃から、入居者が住んでよかったと思えるよう、本人本位の支援を全職員で心がけている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着に基づき理念にもその旨をふまえ、地域と共に支えあう事を重きにおき実践に努めている。	家庭的な雰囲気・残存機能・尊厳ある生活を理念に掲げており、みなで理解し共有できるよう取り組まれており、常に意識できるよう職員トイレにも掲示している。	地域での暮らしを支えることがイメージできるような内容を含むことが望ましい。職員間で話し合い、地域密着型サービスとしての意識を共有できる理念を作ることに期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自施設が山間部にあり、日常的に交流は難しいが、地域の運動会に参加、施設主催のクリスマス会には参加頂いている。又、本年度は、地域に伝わる漬物の作り方を教えに来てくださるなど交流の場を持つように努めている。	市民運動会では入居者の参加のために、地域のお年寄りと一緒に席を設けてくれる等、地域の支援が得られている。また地震体験の地域の研修にも入居者と一緒に参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から入所の為の手続きの仕方、施設見学の依頼があり、地域に方が30人程集まって頂き介護保険の仕組み等の説明会を開催する事が出来た。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的内容を取り上げての話し合いはないが、防災について、地域での取り組みについての話し合いがなされた。	昨年度は3回開催した。今年度は2カ月に1回開催することを計画している。また多数の家族の参加が得られるように幸楽新聞でも呼び掛けている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に報告や取り組みについて伝えている。	運営推進会議では市の職員からの情報提供等が得られている。また市役所に出向いた時は担当者への挨拶を欠かさず、協力関係が築けるよう心がけている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしている。又家族様には入所時にリスクを含め説明、理解を得ている。身体拘束について法人内の勉強会に取り入れ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束に関しては、無意識的に発する事がある為、意識を高く持つ	全職員が身体拘束の弊害について理解できるよう取り組まれており、普段から身体拘束は行っていない。内外部の研修会にも参加して、入居者の自由な生活を見守れるよう心がけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会で学ぶ機会を持っている。入浴時に全身観察、受傷部位カードを使い現在の状態を職員皆で把握、アザの出来やすい利用者は朝の朝礼時、夜勤者は更衣時に状態把握、確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では、勉強会を持っていない。今後勉強会に含めていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、家族との話し合いを持ち、不安な点や、専門に解り易く答える様に努めている。解約時は気持ちよく新しい移転先での生活が出来るように支援している。又改定時には再度契約書を交わし、説明を		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは、より良い関係作りに努めている。面会時には、近日の利用者の様子を伝え、家族が話し易い雰囲気作りに努めている。花見の弁当の中身や食事のメニューを利用者の意見を取り入れ考慮している。	入居者からの意見はなかなか聞けないが「～したい」という気持ちを引き出せるような話しかけを心がけている。家族会等の設置はなく個別の意見を聞くだけなので、家族同士の話し合いの場を設けたいと考えている。	グループホーム内の行事の時などに、家族同士で話し合う場を設け、家族からの意見を集め運営に活かせるよう、今後の取り組みに期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のフロアー会議、朝礼、終礼時に意見や提案を聞く機会がある。必要と思われる事に関しては、直ぐに取り入れている。	主に毎月の会議で職員からの意見等を聞いている。また職員は気になる事が有るたびに管理者と話しあうようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得について、資格手当、資格一時金等が設けられるようになった。又、誕生日月には気持ち粗品が手渡されている。又、処遇改善交付金を受けることにより、研修の機会も増え、職員の向上心も共に増える事		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じ、必要な資格習得が出来るように支援している。ヘルパーの資格等働きながらでも取得出来るように勤務表の調整を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ヘルパー研修の受け入れを行い、実践している事を教える立場になり、再度利用者に対する支援の方法を振り返る事に役立っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が自らの言葉で訴えの出来ない事が多くあり、家族さんを介しての要望等を充分にお聞きしている。丁寧な対応を心がけ慣れるまで決して孤立させない事を心がけている。	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	先ずは、家族の方の話を傾聴する事に心がけ、その中から見えてくる問題点に取り組む事によって信頼関係をきづいている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	幅広い対応が出来るように努めている。往診や歯科治療に関しては家族希望の応じて説明を行っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を引き出し、又低下させない為に、日常生活の様々なシーンで生活に必要な事を共に行っている。自ら、手伝いを申し出てくれる方も見られる。同じ空間を共有し共に泣き、笑いが出来る関係を築いている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたときは必ず話を聞いている。又、レクに共に参加されたりとコミュニケーションをとる事に心がけており、その中から新たな介護の指針が見つかる事が度々ある。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人自身の記憶も薄れ、種々関係を保つことは難しいが、会話の中で話題にしたり、遠方から来られた面会の方にはゆっくり過ぎて頂けるように支援している。	普通通っていた小学校に行ったり、またドライブの途中に以前住んでいたところを通ったりしてこれまでの地域とのつながりが感じられるようにしている。希望にあわせてお墓参りにも行けるよう支援している。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の相性をよく見きわめて、心穏やかに暮らしを営めるようにさり気なく支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、家族、利用者と連絡をとり、相談にのっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間の限り利用者としっくり話し思いを汲み取る事に努めている。普段の様子の把握に努め変化に気づき迅速に対応出来るように心掛けている。変化に対応出来るように申し送り引継ぎ、月一回のフロアー会議にて	日々の関わりの中で声掛けをして思いを把握して支援しており、花が好きな人はベランダで栽培を楽しんでいる。意思の疎通が困難な場合も、表情で確認したり家族から聞いたりして本人本位のケアを心がけている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者自身が語る昔の話をよく聞き、又、家族の方より折にふれて話をお聞きしている。入所前にも把握するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日のケース記入を行っており、申し送りにより把握できる様に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに添って日常生活が営まれ心身の変化には即スタッフ間の話し合いで介護方法が変えられて行く。	日頃からの本人や家族からの声と、申し送りノートによる職員からの情報を集めて入居者の得意なこと等を知り、入居者の様子や訴えに合わせた個人毎のケアプランを作成し、定期的に評価も行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	暮らしの中での気づきは、些細なことであっても個別記録に記入するように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の置かれている状況に応じて必要なニーズに出来る限り応えている。キーパーソンがご主人であれば、利用者に必要な衣類の買出しや、家族に代わり受診の支援等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の行事となっている、幼稚園児の訪問や運動会に参加など地域の支援を受けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には説明を行い、家族の判断の元かかりつけ医を決めている。又、必要に応じ、受診への同行、体調によっては応診をお願いする事もある。	本人や家族が希望するかかりつけ医との関係が継続できている。定期受診は家族にお願いしているが、病状把握のために職員が同行するときもある。緊急の場合は近くの橋本市民病院を受診している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に相談、昼夜問わず支援を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中もお見舞いに行き、家族や、病院関係者との情報交換を行いつつ、必要な治療が終われば早期に退院できるように、支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向をかかりつけ医に伝える、パイプ的な役割を担いながら、職員間での話し合いを密にし、利用者の体調に合わせ、ホームで出来る支援を伝える様にしている。	可能な限りターミナル時も受け入れる方針であるが、職員はターミナル時の対応に不安をかかえており、研修等を希望している。	重度化に伴う意思確認を本人・家族・医師・職員等が連携をとって行い、安心して納得した最後を迎えられる様、多方面での支援を期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力が身に付くように、定期的に訓練を行っていく必要がある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実践力が身に付くように、定期的に訓練を行っていく必要がある。地域との協力体制を具体化して行く必要がある。	年2回防災訓練を行っている。市の防災担当や地域消防団班長・区長等の電話番号を緊急時の連絡簿に記載し災害無線や避難場所・食料の協力が出来るようにしている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付け対応しているが、馴れ合いの中になっ てしまわない様に、職員会議の中でも時 折議題にあげ見直す必要がある。	1人ひとりの入居者の気持ちを大切に考えて ケアしている。声掛けや話し言葉にも気をつ けて職員間で注意を促しあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	訴えがある時は、ゆっくり話を聞き、又、遠 慮される事が多い中、自己決定できる様に 働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が今したい事を出来るだけ、見守り、 支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	毎日同じ服を着ることなくその人に合った服 装をしている。歩行可能な方は外出を含め、 地域の理髪店に行き、困難な方は訪問理容 を利用している。同じ髪型にならない様にそ の人のしさをを出している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の献立は季節の食材を使うように配 慮、食事の写真を撮り、見直しに役立ててい る。食後の後片付けを共に行うなどの支援 を行っている。	昼食時はケアに支障がないよう食事作りの職 員を採用している。食事は職員と共にし、自 分で食事を取りに行く等出来ることはしてい る。献立は職員だけで決めている。	自分の食べたい献立を一緒に考え、 また作る楽しみ・役割を持つことの大切 さを考えながら、様々な取り組みを 期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事量、水分量は個人記録にて把握してい る。食事量が少ない時は、心身状態の把握 や好き嫌いを把握し時間をずらし、捕食を提 供することもある。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後、声掛け、見守りを行い口腔ケアをし ている。義歯は夕食後ポリドントにつけてい る。週一回、歯科衛生士による、口腔ケアも 行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。パット等のオムツ用品を使用する時には、必要か、不必要化を話し合いながら、決めている。安易に使用しないように努めている。	時間排泄や誘導等で排泄パターンを把握しながら支援している。またパットの大きさやリハビリパンツの種類など個々に合わせて対応している。排泄時の声掛けも自然に行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便のチェック表を設けている。プルーンや排便を促すのに良いとされている食物を取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度の入浴を基本とし、体調や気分に合わせて対応している。	肌の乾燥等毎日入らない方が良いのではとの意見が出た為、現在入浴は隔日にして、午後から夜までいつでも入れるようにしている。入浴しない日も、着替えは毎日行い、清潔保持には気をつけている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に温かい飲み物を提供、夜間の睡眠時間を把握し、睡眠状態が悪ければ昼寝が出来るように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースがあり、表の蓋に薬表を掲示している。薬の残数表と薬セット担当が解るように一覧表を作り、服薬の確認を記録に残し、服薬忘れに気をつけている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花の好きな方には、個人のプランタンを作り、ベランダに設置ホールより眺めたり、水をあげたり楽しんでいる。又、散歩やドライブで気分転換をはかる様に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外に出る機会を取り入れている。毎年、他施設と共に泊旅行に出かけている。	畑の草ひき、買い物、散髪、外食、散歩等できるだけ外出できるように支援しているが、職員の人数の関係等で思うように出かけられないこともある。	「できるだけ多く外出の機会を持ってもらいたい」という職員の課題が解決できるように工夫し、今後外出の機会を多くもてるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、家族より預かっている。個人的な買い物では、使用できるシステムになっている。個人で所持している方はお一人居るが、所持されている事を忘れている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のからの申し出があった場合、対応出来るようにしている。	
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花を生け、居間には近日の写真を掲示、食事の作る音や、匂いを感じる事が出来る。温度は床暖や暖房を調整し心地よく過ごせるように配慮している。居間の電球色は暖かみのあるものを使用している。	温かな光が入って気持ちの良い空間となっている。また共用空間の和室には懐かしい筆筒が置かれ、家庭的な雰囲気である。カウンター式のキッチンでは職員と入居者が親しく話をする光景も見られる。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファを数ヶ所を設置、和室等があり、その時々気分に応じて利用されている。	
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に出来るだけ、馴染みのあるものを持参してほしい旨を伝えている。	机、筆筒、写真など個々の入居者の馴染みの物が持ちこまれていて、心地よく生活できるように配慮されている。仏壇のある部屋では年に2回僧侶による読経が行われ、他の入居者も同席している。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所、間もない間はトイレに表示をつけるなどの配慮をしている。又、必要な介護補助具があれば、検討し設置している。	